

SAIDAI CONCIERGE

サイダイコンシェルジュ

01 巻頭特集

埼玉大学のキャリア教育プログラムとは？

05 ラボ探訪 — Welcome to my laboratory —

教養学部 教養学科ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程 / 明星研究室
経済学部 メジャー・経済分析 / 長田研究室
教育学部 学校保健学講座 / 西尾研究室
理学部 生体制御学科 / 津田研究室
工学部 電気電子システム工学科 / 辻研究室

10 埼大生がボランティアで地域の子供たちの学習をサポート 学習支援サークル「ひこさらす。」に注目!

教育学部 学校教育教員養成課程2年
熊澤七海さん

11 次世代を担う若手研究者を後押し! 令和初の「梶田隆章賞」は 宇宙物理学の研究者を目指す 後藤瞭太さんが獲得!

12 サークル紹介 埼玉大学鉄道研究会

13 活躍する卒業生からのメッセージ

東海大学付属大阪仰星高等学校 教諭
石川 萌さん

14 学長のページ

自身の成長を促すには興味の幅を狭めずに経験値を高める

将来、なりたい自分になるために必要なこと

埼玉大学のキャリア教育プログラムとは？

「キャリア教育」という言葉をご存じでしょうか？ これは、卒業後の人生と望ましい職業について学生が自律的に考え、自分らしい生き方を実現する力を身に付けることを目的とした教育のこと。社会や企業に求められる人材の姿が変わる中で、重要性が高まる「キャリア教育」について、埼玉大学の取り組みを紹介していきます。

Part 1

埼大でキャリア設計の第一歩を キャリアサポート室 石阪督規教授インタビュー

埼玉大学の「キャリア教育」の概要について、今年度新設されたばかりのキャリアサポート室の石阪督規教授に話を聞きました。

就職支援とキャリア教育を融合させ 学生のキャリア構築をトータルで支援

——まずは今年度新設されたキャリアサポート室の役割について教えてください。

石阪教授 これまで本学では、「キャリア教育」と「就職支援」とが別々に行われてきました。キャリアサポート

室は、それらを統合して進めていく役割を担います。

——そもそも「就職支援」と「キャリア教育」はどう異なるのでしょうか？

石阪教授 「就職支援」とは、就職するためのノウハウやスキルを提供することが目的。文部科学省が「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している「キャリア教育」は、いわば「人生において働く意義を自ら考え、キャリアビジョン※1を明確にし、それを実現するためのサポート」を行うもの。もしキャリアビジョンが明確になっていなければ、希望する就職先を知名度や規模を基準に判断してしまいがちです。しかし、そうやって選んだ企業が、必ずしもその学生に適しているとは限りません。例えば、規模は小さくても世界に誇る技術を持つ中小企業は少なくありませんが、大学で身

に付けた専門性を生かすならそのような企業に入社の方がよいケースもあるでしょう。そこで「就職支援」と「キャリア教育」を統合し、学生が自分自身で進路を決定するための素材を提供する体制を整えているのです。

社会、企業活動の変化によって 重要性が高まるキャリア教育

——かつて大学は就職支援を充実させてきましたが、なぜ「キャリア教育」がこれほどまで重視されるのでしょうか？

石阪教授 1つは、就活ルール※2が2021年度の卒業生以降廃止されることが関係しています。これにより就職活動が今よりも早まる可能性がある。そうすると従来のような3年生からの就職支援では不十分な訳です。そこで、「キャリア教育」を通じて、早い時期から自分のキャリア設計を考えることが重視されるようになったと言えます。ですから「キャリア教育」は、1、2年生も対象になります。もう1つの要因は、企業が求める人材がこれまでとは変わってきたということ。これまで、コミュニケーション能力や協調性が高く、組織でうまく立ち振る舞える人材が求められてきました。しかし、社会構造の変化により、世の中はますます混迷を深め、先が見通しにくくなっています。その結果、企業は社会やユーザーの課題解決につながる

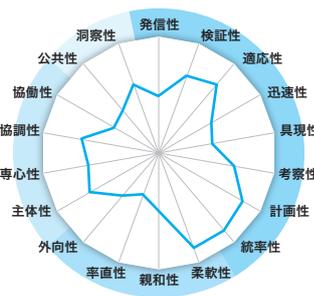


『就職支援』と『キャリア教育』が融合することで、学生に自分探しの機会や将来の人生設計に対する気づきを与えることが可能になります」と石阪教授

製品やサービスで、新たな価値を提供していかないと生き残れなくなっているのです。それを実現するために必要な主体的に行動し、課題を発見・解決できる人材を育成する上でも「キャリア教育」が必要不可欠です。実際に、本学では「キャリア教育」の一環として、そのような人材を育成するためのプログラムも充実させています。

——具体的にはどのようなプログラムがあるのでしょうか？

石阪教授 例えば「課題解決型プログラム」です。これは半年もしくは1年をかけて、地域の企業と一緒に学生が地域課題を発見し、解決策を考察していく実践型の講義。これにより課題を発見して、それを解決するスキルを身に付けることができます。また、毎回、埼玉県内の異なる企業から卒業生を招き、その企業が抱える課題などを話してもらって、学生が解決策を考えるという連続講義も開講しています。このような取り組みは、課題解決能力を向上させる効果があるのはもちろん、社会や仕事、自分の将来への関心を高めたり、これまで存在に気づけなかった優良企業を発見する機会にもなるで



「長所発見テスト」の結果のイメージ。テストの結果は「キャリア教育」や「就職支援」を最適化するために活用される予定

しょう。例えば、埼玉県内のBtoB企業※³の中にも世界的に有名な企業がありますが、学生は接点がないので知る由がありません。そこで、そのような企業から講師を招けば、それまではあまり目が向くことがなかった埼玉県内に素晴らしい企業が数多く存在することに気付くきっかけになるかもしれません。

埼玉大独自開発の「長所発見テスト」でまずは長所と目標を明確に

——他にも「キャリア教育」に関して取り組みがあれば教えてください。

石阪教授 埼玉大学独自の取り組みとして「長所発見テスト」を1年生から実施しています。就職対策のアセスメント※⁴として、よく利用されている「適職診断※⁵」とは異なり、各学生の長所を「見える化」する点がユニークです。学生たちには、ここで把握した強みに向き合うことで、自分の強みを生かせる職業が何かということや強みを伸ばしていくには大学で何を学ぶべきかを考えるきっかけにしてもらいます。つまりこのテストの結果は、自分の将来のことをきちんと考えて、そのために必要なことを学ぶための羅針盤となるものだと言えるでしょうか。

——最後に受験生にメッセージをお願いします。

石阪教授 就職活動というと大学3年生からスタートするイメージがあると思いますが、いまは1年生のうちにある程度準備していく必要があります。それ故、本学では「自分の長所を客観

的に把握するためのアセスメント」や「企業や社会と密接にかかわることで将来に対する何らかの気づきを与える講義」など、「キャリア教育」に関するプログラムを充実させています。「課題解決プログラム」など、教育的な効果の高いものについては、単位認定もされるので受講しやすと思います。埼玉大学に入学したらできるだけ早い段階から活用して欲しいですね。

“キャリア教育”とは単に就職のためのサポートを行うということではありません



キャリアサポート室
石阪督規教授

2000年、広島大学院社会科学部国際社会論専攻博士後期単位取得満期退学。その後、三重大学人文学部准教授、東京未来大学モチベーション行動科学部教授を経て、2016年に埼玉大学基盤教育研究センター教授に就任。2020年より現職

「就職に対して学生が自律的に行動できる支援を」がモットー

埼玉大学統合キャリアセンターSU 就職支援担当は、キャリアサポート室と連携して、様々な就職支援活動を行っています。

個別相談窓口では、面接対策や履歴書の添削などを行う「アドバイジング」や、就職活動に関する不安や悩みについての相談ができる「カウンセリング」に対応。その他にも、就活セミナーの実施やインターンシップ情報の公開、LINEを介した個別質問への対応などを行っています。



左/普段の埼玉大学統合キャリアセンターSU 就職支援担当の様子。右/石阪教授と埼玉大学統合キャリアセンターSU 就職支援担当スタッフ。個別相談はキャリアコンサルタントの資格を持つスタッフが対応するので安心です

Part
2

卒業生に聞く、 埼大のキャリア教育と就職支援

田中産業株式会社 営業部 営業2課 嶋田ゆりさんインタビュー

社会に出て活躍する卒業生に、就職活動の思い出や埼玉大学の就職支援について語っていただきました。



田中産業株式会社 営業部 営業2課
嶋田ゆりさん

2019年3月、埼玉大学教養学部現代社会専修課程卒業。同年4月に田中産業株式会社に入社し、営業部 営業2課に配属

LINEで悩みに応えてもらったのは
本当に心強かったです

県内にこのような企業があることは
初めは知りませんでした

——まずは貴社の事業内容を教えてください。

嶋田さん 当社は、駅に貼っているような大きなポスターやクリアファイルなどの印刷を得意とする印刷会社です。日本最大サイズの大きな印刷ができることで知られています。私は営業アシスタントとして、外勤の営業担当者が受注してきた仕事の伝票の作成など、社内をスムーズに回すための業務に携わっています。

——こちらの会社を志望したきっかけは？

嶋田さん 就職活動を始めた際には、会社の存在は知りませんでした。ただ、学内合同企業説明会※6などに参加していくと、「田中産業」という名前を度々目にする訳です。それで興味が湧いて、話を聞くと、印刷業界の中でも高い技術力をもつ企業だということが分かりました。元々、広告や印刷業に興味があったのですが、埼玉県内にそのような企業があることは分からなかったもので、存在に気づけたことは運がよかったと思います。その後、イン

ターンシップ※7にも参加し、社内の雰囲気が自分にあっていて働きやすそうだと思い、応募しました。

——嶋田さんは大学3年生の時に「課題解決型プログラム」を受講していましたが、このプログラムによって成長できたと思うことはありますか？

嶋田さん 自ら課題を見つけていくことの難しさと重要性を知ることができました。今の仕事をする上でも、外勤の営業担当者から頼まれたことだけでなく、+αを考えるようにしています。そのようなマインドで仕事ができるのも、課題解決型プログラムに参加したおかげかもしれません。

自分を客観視できたことが
ターニングポイントになりました

——埼玉大学の就職支援に対する感想を聞かせてください。

嶋田さん 就職活動を始めたばかりのころは、広告・印刷業に携わりたいという漠然とした希望はあったものの、仕事をする中で何を実現したいかという明確なビジョンがありませんでした。そのため、会社説明会に行っても、何をすればよいのか分からず、名の知れた企業のブースになんとか並んでいるという感じだったと思います。そんな中で、就職支援担当の方との個別相談で、客観的な意見をいただいた結果、自分に合う企業像が徐々に見えてきて、選択肢を絞ることができたと思います。また、LINEを介してカウンセラーの方に相談できる仕組み※8は本当に頻繁に利用させていただきまし

用語解説

1~2ページ

※1 キャリアビジョン: 将来、自分が在りたい姿のこと。

※2 就活ルール: 日本経済団体連合会(経団連)と大学側が、就職活動の開始時期を定めたルールのこと。元々は戦後の人手不足の中で、学生の青田買いを防止することを目的に定められた「就職協定」に端を発するもので、2021年度の廃止が決まっています。

※3 BtoB企業: BtoBとは「Business to Business」の略で、BtoB企業とは一般消費者ではなく、企業相手にビジネスを行う企業のことを指します。消費者にとっては直接的な接点がないため、業界内では有名であっても一般にはあまり知られていない企業が少なくありません。なお、一般消費者に

向けたビジネスを行う企業はBtoC(Business to Consumer)企業と呼ばれます。

※4 アセスメント: 物事を調査などにより評価すること。

※5 適職診断: その人の性格をもとに、様々な仕事の中から、自分がどの仕事に適しているかを診断するテストのこと。就職支援における自己分析ツールとして、様々な大学で活用されています。



仕事中の嶋田さんの様子。「色々なタイプの仕事を経験して。経験値を上げることが目標。今年は後輩も入ってくるので模範になるように頑張りたい」とのこと

た。ちょっと確認したいことや質問したいことも気軽に聞けるのはありがたかったですね。また、就活セミナー※9にも積極的に参加しましたが、同じセミナーを何度も開催してくれたので、スケジュールの都合で参加できないということがほとんどなかったのもよかったですね。

——就職支援担当の個別相談窓口に行ったことがきっかけとなって取り組んだことで、特に役立ったと思うことはありますか？

嶋田さん ライフラインチャートを使った自己分析※10ですね。それまでの人生で、ということがあって、その時々にな何を考えたのかをノートにすべて書き出して、自分を客観的に評価することをしました。これによって、

自分がどういう人間で、強みや目標は何かということが明確になり、その後の面接でも自信をもって自己アピールができたと思います。

——今年度から、埼玉大学では、学生が自分の強みを把握するために1年生のうちから「長所発見テスト」を受けてもらうことになりました。このような取り組みを大学が行うことについて、先輩として思うことはありますか？

嶋田さん 恐らく、私のように就職活動が始まってから自己分析をするのでは、遅いと思います。それは、就職活動を始めたばかりの頃に、自分がすべきことが分からず悩んだことが何よりの証拠です。そう考えると大学が早いうちから自分の強みを把握するためのサポートをしてくれるのはうらやましい限りですね。長所を把握して、自分が何をやりたいかが分かれば、大学生生活もより充実したものになるでしょうし、就職活動も効率よく進められると思います。私は運よく自分に合う企業に入ることができましたが、限られた時間の中で、自分にぴったりの企業を探すことは至難の業です。だからこそ、絶対に早い段階からある程度の準備しておいた方がよいと思います。

嶋田さんが所属する営業部営業2課の志賀謙太課長のコメント

嶋田さんは、真面目で仕事にも一生懸命。自ら成長していこうという意欲を感じるので、その気持ちを大切に、幅広くチャレンジして欲しいですね。

私たちの仕事には、刻々と変化するお客様のニーズを的確に捉えた上で、臨機応変に対応し、お客様の満足につなげていくことが求められます。埼玉大学には、そのようなニーズに応えられる人材を育成することを目的とした「キャリア支援」によって、今後も優秀な人材を輩出して欲しいですね。

就職・キャリア支援セミナースケジュール

4月	「前期就活オリエンテーション」
5月	「インターンシップについての考え方」「前期から就活を始めた人の進め方」
6月	「仕事理解セミナー」「インターンシップ紹介セミナー」
10月	「スーツの選び方・マナー講座」「後期就活オリエンテーション」
11月	「文理別セミナー（就活のまとめ）」「自己PR書き方セミナー」
12月	「留学生向けセミナー」「業界研究セミナー」「インターンシップ紹介セミナー」
1月	「面接・GD対策セミナー」「業界研究セミナー、インターンシップ紹介セミナー」
2月	「模擬面接・模擬GD」「就活対策セミナー総集編」「業界研究セミナー」
3月	「合同企業説明会」「官公庁等説明会」「就活リスタートセミナー」「模擬面接」「模擬GD」

「模擬GD」「模擬集団面接」等は年間を通して複数回実施

3~4ページ

※6 学内合同企業説明会：埼玉大学統合キャリアセンターSUが毎年3月に開催。大手企業、優良中小企業、本学と産学官連携をしている企業、さいたま市で獨創性・革新性に優れた技術を有するものづくり企業として認証された「さいたま市リーディングエッジ加盟企業」など様々な企業と、埼玉大生が直接コンタクトが取れるイベントです。

※7 インターンシップ：学生が、企業で就業体験を行うこと。学生にとっては、実際の仕事内容や企業の雰囲気を知ることで、就職先を見極める貴重な機会になります。企業にとっても、採用において、学生の能力を間近で判断する機会となるためメリットが大きく、インターンシップを受け入れる企業の数は増えています。

※8 LINEを介してカウンセラーの方に相談できる仕組み：埼玉大学の就職支援では、LINEのトーク機能を使って、就職支援担当の相談員が、学生の悩みや質問に答える仕組みを用意しています。ちょっとしたことでも質問しやすいと好評です。また、セミナーの情報などもLINEで発信しているので、必要な情報を見逃すことがありません。

※9 就活セミナー：埼玉大学では、自己理解の方法、企業・業界研究、面接対策など、就職活動に必要な考え方やスキルを身に付けるためのセミナーを数多く実施しています。（スケジュールやセミナーの内容は、右上の囲み内を参照）

※10 ライフラインチャートを使った自己分析：これまでの人生を自分の感情や幸福度を軸に図式化して、自分が持つ価値観を把握する手法。



教養学部 教養学科ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程 / 明星研究室

本物の文章、偽の文章とは何だろうか？ を考える

出版物としての作品には
著者以外の人の手が入っている

取り組んでいる研究テーマは大きく分けて2つ。プラハ（現在のチェコ共和国の首都）に生まれ19世紀末から20世紀初頭を生きた作家フランツ・カフカと編集文献学です。編集文献学とは、テキスト（出版物などに記された文章そのもののこと）をめぐる信頼性や真正性を考える学問のこと。例えば、現在、一般の方が読むことができるカフカの作品のほとんどは、彼の死後に断片的に残された手書き原稿を、友人であるマックス・ブロートが編集したものが元になっています。とすれば、その作品は、本当にカフカの意図通りのものといえるのか？そこには編集者ブロートの意図は混じっていないか？といった疑問が生じる。つまり、そのテキストは本当に正しいか？それは信じられるのか？こうした疑問を理

論的に検証しようということ。そして、このような問題は、カフカに限ったことではありません。そもそも、編集という手を加えないで、テキストが一般の人にも読める出版物にまで仕上げられることはありません。ただ、その編集をおこなうのは、著者ではない。いいかえれば、私たちが手にするどんな出版物のテキストにも、著者以外の人の手が入っている。編集文献学が扱うテーマは、印刷技術発明以前の古典的な作品——例えば聖書や古代ギリシャの哲学者の著作などはもちろん、あらゆる書物や作品に関する問題だといえるのです。

デジタル社会の言葉の
在り方を考えるきっかけにも

また、デジタルメディアを介して大量の言葉に接する、現代のコミュニケーションが孕む問題を考える上で、何ら

かの示唆を与えることが出来ると考えています。SNSなどのデジタルメディアでは、発信する相手がどのような人かは分からないまま、情報を受け取るということが珍しくありません。それはある意味、文学作品も同じです。すでに人生を終えているカフカの気持ちなど、誰もわかるはずはありませんから——。つまり、文学研究とは何かを突き詰めれば、言葉から人を理解するとはどういうことか？ 真実に聞こえるような嘘を見分ける、嘘のなかに真実を見つけるにはどうすればよいか？を考えるとよいでしょう。

Profile

明星聖子 [みょうじょう きよこ]
教養学部教授

東京大学文学部卒業
東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程修了
1998年 日本学術振興会特別研究員(PD)
1999年 埼玉大学教養学部講師
2000年 埼玉大学教養学部助教授
2007年 埼玉大学教養学部准教授
2010年より現職

message

明星教授
より
受験生へ



世の中の当たり前を受け入れる前に自分で考える

学生たちには、自分で課題を見つけ、その解決策を考える力を身に付けて欲しいです。そのためには、世の中で是とされていることを鵜呑みにせず、疑いのまなざしを向けるということも時には必要になるでしょう。

いずれにしても、普段接する様々な経験やトピックに対して、当たり前のことだとさらっと流すのではなく、一生懸命考える姿勢で物事に取り組めるようになって欲しいと思います。また、文学の研究をしたいのであれば、できるだけ本を読むようにしてください。やはり読書量が物を言う研究領域ですので。

埼玉大学で、じっくり腰を据えて足腰を鍛える勉強を

埼玉大学の一番の魅力は、落ち着いて勉強ができる環境が整っていることだと思います。学生にとっては、一緒に勉強する仲間も真面目で、じっくり「足腰を鍛える勉強」ができる。「足腰を鍛える勉強」とは、文学研究だと、語学をじっくりと学び、資料をきちんと読み込むといった、基礎的な知識やスキルを養う勉強のこと。同じことを歳をとってからやろうとしてもなかなか難しいので、大学生の内きちんと身に付けることが大切です。そうでなければ、何をすることも小手先の技術で勝負するしかなくなってしまうからね。



経済学部 メジャー: 経済分析 / 長田研究室

人々の幸せに貢献するための 金融のあるべき姿を明らかにする

たくさんの人の命を救うため 金融の研究者に

金融は、経済活動の血液だと言われています。その時はお金を使う必要がないけれど将来使うために貯めている人から、手元にお金がないけれど今使う必要がある人に、うまくお金を流すという役割を担うことで、経済活動を活性化させる効果があるからです。そして、この仕組みを最適化できれば、経済が発展し、ひいては人々の幸せにつながります。

私が取り組んでいるのは、そんな金融の研究ですが、取り組み始めたのは、大学時代に遡ります。当時は日本がデフレ（デフレーション：物価が下がり続ける経済状況のこと）不況の真っ只中で、経済的な悩みを抱えて自殺をする人が多かった時代で「デフレを引き起こしている要因であ

る金融政策を、君の研究成果で改善できれば、自殺するかもしれない数多くの命を救うことになる」という指導教授の言葉を聞いたことがきっかけでした。今でも、この言葉を忘れず研究に取り組んでいます。

フィンテックが発展すれば 銀行が不要になる？

具体的には、様々な経済データを統計的に実証分析していく計量経済学的手法を使って、日本の銀行を中心に、金融政策・金融行政の影響を解明していくことに取り組んでいます。

バブル崩壊以降の日本の不景気は、金融の問題がもたらしたところが大きいと言われていますが、現在も日本の金融にはまだまだ問題が残っていると考えています。そこで、データの分析から、課題や解決策を導き出し、日本

の金融のあるべき姿を明らかにしていく訳です。

また、今後の金融を考える上では、フィンテックの影響を無視することはできません。フィンテックとは、ICTなどの先進技術を駆使して、金融を革新させていこうというトレンドのことを指しますが、これが発展すれば「伝統的な銀行は必要なくなる」と考えられています。それ故、フィンテックの活用が進む海外の動向も視野に入れた研究を進めていきたいと考えています。

Profile

長田 健[おさだ たけし]
経済学部准教授

- 2004年 一橋大学商学部卒業
- 2006年 一橋大学商学研究科修士課程修了
- 2009年 一橋大学商学研究科博士課程単位取得満期退学
- 2010年 一橋大学商学研究科特任講師
- 2011年 商学博士(一橋大学)
- 2011年 西武文理大学サービス経営学部専任講師
- 2015年より現職

message

長田准教授
より
受験生へ



いましかできないことに積極的に取り組んで欲しい

私のゼミでは、英語のテキストを使っていますが、毎週、ゼミ生の中から1人、担当を決めて、30ページほどあるテキスト1章分の内容を発表してもらいます。英語のテキストを30ページ読むことはとても大変ですが、あえて課題にしています。それは、学生たちには、今しかできないことをやって欲しいからです。社会人になると、時間的な制約などがあって、なかなかできないことも、学生時代ならやりやすいということがたくさんあります。英語の本を読む以外にも、留学など、今しかできないことにどんどんチャレンジして欲しいと思います。

金融を研究するなら埼玉大学がおすすめな理由とは？

学生にとって、埼玉大学の経済学部で学ぶ魅力は、経済だけでなく、経営や法律、政治を専門とする先生方が所属するので、幅広い視点から経済学を学べることだと思います。

金融の研究者としては、埼玉大学経済経営系大学院で指導することが魅力の1つ。社会人が通学しやすいように、平日の夜間と土曜を中心に東京の秋葉原で授業を開講する大学院ですが、そのような形で経済学博士を取れるのは珍しいため、金融の世界で名のある方も数多く通学しています。そこで指導することは、そんな方たちと議論する貴重な機会にもなっているのです。



教育学部 学校保健学講座／西尾研究室

少子高齢化が進む日本社会の課題の1つ 老化による疾病発生のメカニズムを解明

なぜ老化が起き

老化関連疾患が発症するのか？

「病気はすべて免疫で語れる」という研究者がいるほど、免疫というのは病気の発症と深く関わっています。つまり、免疫を研究すれば、色々な病気について発症のメカニズムを知ることが期待できるのです。

そんな免疫の研究の中で、私は老化に特化したテーマに取り組んでいます。専門的には老化関連疾患と呼んでいますが、糖尿病や動脈硬化など、加齢とともに発症のリスクが高くなる、いわゆる生活習慣病が発症するメカニズムや、老化のメカニズムを、マウスを使った実験によって解明する研究を行っているのです。

最終的には、この研究の成果によって、生活習慣病や老化などの予防に役立てられることが期待されます。少子

高齢化が進む現在、高齢の方が健やかで幸せな人生を全うできる世の中を実現することにも貢献できるでしょう。具体的には、「GADD34」というたんぱく質が欠損しているマウスを使った研究に取り組んでいます。このマウスは、老化関連疾患を発症しやすいことが分かっているため、「GADD34」と老化関連疾患の関連を解明しようとしているのです。

想定外の結果が

新たな研究テーマを生みだしていく

私の見解では、免疫細胞の老化には、ストレスと食生活が大きく影響していると考えています。ここでいうストレスとは、生体に対する刺激のことで、運動や睡眠、太陽光などから受けるものを含みます。ただ、感染症にかからないと免疫力を得られないように、免

疫を高めるには、このようなストレスが全くないのは好ましくありません。そこで、ストレスが「どこまで必要で、どこから必要ないのか」という最適なラインについて、明らかにする必要があります。この研究の醍醐味は、取り組めば取り組むほど、新たな疑問や課題が出てくるところですね。特に生物を使った実験では、不思議なことに直面することは珍しくありません。まさに好奇心を掻き立てる研究だと言えるのではないのでしょうか？

Profile

西尾尚美 [にしお なおみ]

教育学部准教授

2003年 早稲田大学人間科学研究科博士後期課程修了

2009年 名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞免疫学教室COE研究員

2012年 名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞免疫学教室特任助教

2015年 名古屋市立大学大学院医学研究科細菌学分野研究員

2018年より現職

message

西尾准教授
より
受験生へ



物事に疑問を持ち、本質に迫ることが必要

指導する養護教諭養成課程の学生は、保健室の先生を目指していますが、常に「なぜそうなるか？」「なぜそうするか？」を知りたいことを意識して勉強や研究に取り組んで欲しいですね。

教育現場では、想定外のことが起こります。その時は、ルールやマニュアルを守るだけでなく、臨機応変に対応しなければなりません。そして、臨機応変に対応するためには、そのルールやマニュアルが定められている理由を知る必要があるからです。また、教員になるための勉強をするにしても、理屈が分かっていると、覚えるべきことも自然に頭に入ってくると思います。

教育学部でこの研究ができるのも埼玉大学だからこそ

研究者として感じる埼玉大学の魅力は、ちょうどよい規模感。1つのキャンパスに全学部があるので、学部を超えたコミュニケーションがとりやすいのはありがたい。例えば、専門外のことで疑問が湧いた時に、他の学部の先生に教えてもらうこともよくあります。また科学分析支援センターなど、理工系の施設も利用しやすく、教育学部にながら、このような研究ができるのは埼玉大学ならではの環境です。

このような環境は、学生が多角的なものを見るための視点を養うためにも役に立つと思います。



Welcome to my laboratory

ラボ 探訪

理学部 生体制御学科 / 津田研究室

透明な熱帯魚の神経細胞から 小脳の神経ネットワークの仕組みをひも解く

現在行っている研究とその魅力

ゼブラフィッシュという小型の熱帯魚を使って、小脳の神経ネットワークがどのように作られ、制御されているか？そのメカニズムの解明を目的とした、神経科学の研究に取り組んでいます。

この研究にゼブラフィッシュを使うメリットは、身体が透明で、生きたまま、細胞一つ一つの動きを把握でき、脳全体の活動が観察しやすい点。神経細胞の観察には、神経活動を光で捉える膜電位イメージングやカルシウムイメージングといった光技術と、行動実験などを用いています。その際、神経細胞が蛍光を発する様子は美しいものです。また、まだ誰も見たことのない現象を目にできることも、この研究の魅力。そして、その現象に隠されている原理を解き明かしていくことは大きな喜びです。

現在、注力している研究内容は、小脳の行動制御と学習のしくみを、眼の動きから見ていくというもの。私達ヒトと同様にゼブラフィッシュも、周囲の景色が動くとその動きにあわせて眼が動くのですが、その際に、個々の神経細胞がどのようにコミュニケーションをしてネットワークを作るのか、またこれが学習によってどう変わるのか、解析を進めています。

小脳の神経ネットワークの研究で期待できること

脳は多数の神経細胞からなり、多様な行動を制御しています。その一つである小脳は、さまざまな情報を統合することで、運動の制御や学習などを司っていることが知られています。例えば、自転車の運転や楽器の演奏などには、小脳での学習が強く関わって

ます。また近年では、認知機能といった脳の高次機能も担うことが明らかになってきています。そのような小脳に異常が生じると、脊髄小脳変性症などまだ治療法が確立されていない神経難病を引き起こすほか、発達障害にも関わることが知られています。

この研究で小脳の謎に迫ることで、脳の情報処理のしくみを理解するとともに、このような疾患の治療法の開発が期待されます。

Profile

津田佐知子 [つださちこ]
理学部准教授

- 2004年 東京大学理学部生物科学科卒業
- 2006年 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻修士課程修了
- 2009年 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程単位取得退学
- 2009年 Duke-NUS Graduate Medical School 博士研究員
- 2014年 埼玉大学研究機構助教
- 2019年より現職

message

津田准教授
より
受験生へ



多様な分野の興味やスキルが生かせることが魅力

神経科学という分野の研究には、生物学にとどまらず、情報科学、物理学、心理学、言語学など、様々なアプローチがあります。脳の機能を調べるため、例えば、顕微鏡や解析システムを自作するなど、エンジニア的な要素があったりと、この研究には、様々な分野のエッセンスが融合されていることが特徴です。学生には自分がやりたいことや得意分野を生かしながら自分の道を拓いてもらいたいと思います。

また理学が目指すところはモノの本質を見抜くこと。この学問を学ぶことで、変動の大きい情報化社会の中で本質を見抜く力を養って欲しいと思います。

自然に恵まれた勉強・研究に適した環境

一つのキャンパスに全5学部があり、多様な研究内容や考え方に触れられるのは、この大学の魅力の一つです。また、首都圏にありながら緑も多く、勉強や研究に取り組むにはとても良い環境です。私が海外で仕事をしていた時は、海に臨む研究所にいましたが、自然豊かな環境で夕日を眺めると力が湧いたものです。それと同じで、大学構内で小鳥のさえずりや風が木々を揺らす音を耳にすると、リラックスした気分で取り組めると思います。



工学部 電気電子システム工学科 / 辻研究室

仕事のコツを自ら学ぶロボットを開発して 人の暮らしを豊かにしていくために

世界で一番感覚の鋭い ロボットができること

人の代わりに様々な作業を行うロボットが、様々なシーンで活用されるようになりました。しかし、その一方で、ロボットにはできない作業もまだまだ数多く存在しています。

私の研究内容は、そのような作業を行えるロボットを開発すること。

ロボットが苦手な作業の代表が繊細な作業です。なぜかという、多くのロボットはそもそも小さな力を検知できないから。小さな力を感じられないので、力の加減が出来ないので

そこで我々が開発したのが、従来比10分の1の微小な力を検知できるロボット用のセンサー。

例えば、工場などで人の代わりに作業を行う産業用ロボットに、このセンサーを組み込めば、これまでは扱えな

かったような傷つきやすい素材を使った製品の組み立てや、歯車を組んでいくといった細かい作業ができますようになります。さらに、軽く触れただけで人が接触したことが検知できるようになるため、安全性の向上なども実現できます。

つまりセンサーによって小さな力を捉える感覚を持たせれば、ロボットは格段に賢くなれるのです。

最終的な目標は センスのよいロボットの開発

このようなセンサーの他、人工知能プログラムの開発など、総合的にロボットの研究を行っていますが、最終的には、難しい作業をうまく行うコツを自ら取り込んでいく——いわばセンスがよいと言えるようなロボットの開発を目指しています。

そして、わざわざ人がやらなくてもいいことをロボットが行うような世界の実現に貢献したいですね。



微小な力を調整して、繊細な組み立て作業ができるロボット

Profile

辻 俊明 [つじ としあき]
工学部准教授

- 2001年 慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科卒業
- 2004年 慶應義塾大学理工学研究科総合デザイン工学専攻修士課程修了
- 2006年 慶應義塾大学理工学研究科総合デザイン工学専攻博士課程修了
- 2006年 東京理科大学工学部第一部機械工学科嘱託助手
- 2007年 埼玉大学工学部電気電子システム工学科助教
- 2012年より現職

message

辻准教授より
受験生へ



自らの感覚を研ぎ澄まして、センスを磨く

剣術の達人は「剣の重さをどう知覚して、どう振り下ろすか?」ということをはたすら考え続けるというエピソードを耳にしたことがあります。トップアスリートや達人と呼ばれる人は、他人が気に留めないようなところに着目して、技を磨いていくものです。

センスというの、生まれつき持ちあわせている人は少なく、磨く意識を持たなければよくなるものだと考えています。

ですので、学生たちには、自ら課題を見つけ、その解決のために自分で努力できるような経験を積んで欲しいと思います。

学生同士で切磋琢磨できる環境で先進的なロボット研究を

やはり高いレベルで学んだり研究するには、周りの雰囲気も重要です。その点、埼玉大学には、真面目な学生が多く相互研鑽しやすい学風がある。私自身も、研究者として、そのような学生と一緒に研究できる楽しさも感じています。

もともと日本はロボット大国でしたが、最近では研究開発の先進性において、海外に後れを取っているのも事実。そんな中、我々が開発したロボットは、世界で最も感覚の鋭いロボットであることを自負しています。さらにこの研究を進めて、世界のロボット技術を引っ張っていきたくと考えています。

学習支援サークル 「ひこざらす。」に注目!



学習支援サークル「ひこざらす。」副代表
教育学部学校教育教員養成課程2年

熊澤七海さん

(埼玉県立和光国際高等学校出身)

埼玉大学の近くで活動する「ひこざ」は、経済的に苦しい家庭の子供などを対象に、無料で学習支援を行う無料塾。そして、地域住民の方たちの寄付や支援によって運営している同塾では、埼玉大学の学生サークルのメンバーが講師を務めているのです。具体的にはどのような活動をしているのか？ このサークルの副代表、熊澤七海さんに話を聞きました。

無料塾は単に子供たちに勉強を教えるだけの場所ではありません

「ひこざらす。」は、埼玉大学の近くで開設されている無料塾「ひこざ」で、子供たちへの学習支援をボランティアで行う学生サークルです。

「ひこざ」は、家庭の経済的な理由など、何かしらの事情があって塾に通えない小学4年生から中学3年生の子供たちを支援するために、理事長の角田眞喜子さんが立ち上げたNPO法人。運営は、地域の寄付やボランティアの方々の協力で成り立っていて、私たちは塾の講師を務めています。

無料塾というと、単純に学習塾に代わる存在だと思う方もいるかもしれませんが、しかし、勉強の場としてだけでなく、子供たちの居場所としての役割もあると考えています。

例えば、塾生の中には、幼い兄弟の面倒をみなくてはならず、家では自分の時間がなかなか作れないという子もいます。それでも、ここに来れば、周りの大人たちよりも歳の近い大学生に悩みなどを相談できる。親や兄弟に相談する機会が少ない子供にとっては貴重な場所なのです。

まずは子供たちに寄り添うこと
それが何より大事

講師として、日ごろから気を付けて

いることは、塾生みんなが、居心地がよい環境をつくること。なぜなら、学ぶ場の雰囲気の子供たちの学習意欲に大きな影響を与えるからです。それを実現するためにも、塾にいる間は、自分が担当する子だけではなく、周りの子にも気を配るようにしています。

それに加え、1日の授業が終わったら、その日にあったことを共有したり、課題を出して解決策を考える学生だけのミーティングを実施。これにより、私たちも課題や悩みを抱え込まないようにしているのです。

基本的にマンツーマンで行う授業では、子供たちに寄り添って指導することを心掛けています。子供たちも、日によってはやる気が出なかったり、嫌なことがあって気を病んでいたりすることがあるでしょう。そんな時は、勉強を強制させるのではなく、子供たちの話を聞いて、どうすれば無理なく勉強に意識が向くかを考えます。

また、子供によって学びたいことや苦手なところが違うのは当然です。そこで、本人から話を聞いて、どのように勉強を進めていくかを決めるようにしています。

塾に入った当初は勉強に乗り気できなかった子が、時間が経つとともに積極的に勉強に取り組むというケースが少なくないのも、子供たちのことをきちんと理解して接してきた結果だと思っています。

ボランティア活動を通じて
成長できた点は数多いです

子供たちの成長を実感したり、彼らの笑顔に触れる度に、「この活動をしていて本当によかった」と思いますし、やりがいも感じます。講師を務める私たちも子供たちと触れ合えることが楽しくて仕方ありません。

活動を通して、子供に寄り添うことと学習環境づくりが、指導する上で大切なことを学べたのは、大きな収穫です。さらに、ミーティングなどで他の学生メンバーや運営委員会の方と意見を交わす中で、様々な考えがあることが実感できました。おかげで教育に対して、多角的な視点をもてるようになったと思います。

現在、私は小学校教師を目指して勉強中ですが、将来は、この経験をいかして、教室の空気感を大切にしながら、子供たち一人ひとりに向き合える教師になりたいですね。



学生ミーティングの様子。授業は火曜と金曜の夜に各3時間あり、ミーティングはすべての授業が終わった後に行われます

次世代を担う若手研究者を後押し!

令和初の「梶田隆章賞」は 宇宙物理学の研究者を目指す 後藤瞭太さんが獲得!

若手研究者の育成推進を目的として、3年前に創設された「梶田隆章賞」。今年度も卒業生の中から受賞者が選ばれました。2020年3月25日(水)に行われた表彰式後に聞いた、受賞者の喜びの声をお届けします。

——まずは梶田隆章賞受賞の感想を聞かせてください。

後藤さん 梶田先生がノーベル賞を受賞されたのは、ちょうど僕が受験生だった頃のことです。そもそも埼玉大学に進学したのは、梶田先生の母校だったことも理由の1つでした。そんな先生の名を冠した賞をいただけたことを、とても嬉しく思っています。また、先生

方はもちろん、先輩の指導が非常に丁寧なことや、仲間同士で協力して研究や勉強に取り組む風土が根付いていることが、埼玉大学の魅力だと考えています。若手研究者を育成するにはうってつけな、この環境を継承し、世の中にアピールしていく上でも、梶田隆章賞のような賞が引き継がれていくことが大切です。そのためにも、受賞に恥じないようにしっかりと研究活動を行っていきたいです。

——4月からは東京大学大学院に進むとのことですが、どのような研究を行うのですか?

後藤さん 宇宙物理学の研究は大きく分けて、宇宙現象の解明を、実験や観測を通して実現しようとするものと、そこで得られたデータを使いながら理論的にアプローチするものがあります。僕が大学4年生から取り組んできたのは後者の研究で、特に「ガンマ線バースト」の研究に注力してきました。大学院では、梶田先生が所長を務める東京大学宇宙線研究所にある、浅野勝晃准教授の研究室で研究を続けていく予定です。浅野先生は、僕がガンマ線バーストに興味を持つきっかけになった書籍の著者で、この分野の先進的な研究者として知られています。

梶田隆章賞とは?

本学理学部物理学科の卒業生で、2015年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章先生の寄附をもとに、平成29年からスタートした制度です。学業において優秀な成績を収め、高い研究者への志を有する大学院進学予定の卒業生1名を毎年表彰します。

——後藤さん自身が、目指す研究者像を教えてください。

後藤さん 宇宙の謎を知りたいという気持ちが、僕が研究を続ける原動力です。この気持ちを持ち続けて、日々努力していきたいと思います。そして、標準理論では質量がないと考えられてきたニュートリノに質量があることを発見した梶田先生や、相対性理論を提唱したアインシュタインのように、物理学者として常識を覆すような新しい発見をしていきたい。そのためにも、固定観念にとらわれない視点と好奇心を持ち続けて研究に取り組んでいくつもりです。また、大学入学直後は講義についていくのが精一杯だった物理学ですが、理解が進んでいくうちに本当に研究が楽しくて仕方がなくなっていました。そんな物理の楽しさもじっくり味わっていききたいですね。



表彰後に山口前学長と握手を交わす後藤さん。例年、大学の卒業式で行われる表彰式ですが、コロナウィルスの影響で卒業式が中止となった今年度は、大学構内にある学長室で執り行われました。

令和元年度 理学部物理学科卒業

後藤 瞭太さん

巣鴨高校出身



写真左から

会長 朝比奈 伊織さん
教育学部学校教育教員養成課程3年
(埼玉県立浦和高等学校出身)

前会長 渡辺 笙悟さん
工学部建設工学科4年
(開智未来高等学校出身)



奥深い鉄道研究の世界へ
出発進行！

埼玉大学 鉄道研究会

大人から子供まで、ファン層が幅広い鉄道趣味の世界。乗り鉄、撮り鉄など、楽しみ方も様々な鉄道の魅力を満喫したいなら、設立から50年以上の歴史を誇るこちらの研究会への参加がおすすめです！

あらゆる鉄道ファンが 楽しめる活動内容

「鉄道を利用する旅行会の企画・実施」「鉄道模型のレイアウト製作・展示」「会報誌の編集・制作」の3つが、私たちの主な活動内容です。

旅行会は、日帰りの新入生歓迎旅行と夏休みを利用した夏旅行を毎年開催しています。昨年は和歌山を中心としたエリアで、引退間近の車両の乗り納めやローカル線の乗車を楽しみました。

鉄道模型の展示は、11月に行われる大学の学園祭「むつめ祭」や地域のイベントなどで実施。展示スペース内に所狭しと張り巡らされた線路の上を、たくさんの鉄道模型が走る様子には、会場に集まった子供たちも大喜びで、毎回来場者の方から好評いただいています。

『空転防止』というタイトルの会報誌は、「むつめ祭」に合わせて秋に発行する一般向けの号と、会員(研究会のメン



バーのこと)とOBに向けて3月に発行する臨時号を発行しています。掲載する記事は、各会員の研究発表で構成していますが、内容は「山手線の沿線一周しよう…」といった旅行記から、「JRE531系のドアチャイムについての再考察」といったマニアックなものまで実に様々。

鉄道研究は、人それぞれの楽しみ方ができるのも魅力なので、会報誌の内容だけでなく、普段の研究についても、敢えて細かいルールは設けず、会員が思い思いに楽しめるようにしています。

昨年12月には、埼玉大学創立70周年を記念した貸し切り列車「埼大鉄研号」を、千葉のローカル線である「いすみ鉄道」と「小湊鐵道」で運行させていただ

サークルDATA

部員：32名
活動場所：不定



きましたが、思い出と意義深い経験になりました。大学のマスコット「メリンちゃん」を描いたヘッドマーク付きの列車を走らせたことで「大学やご協力いただいた鉄道会社の名に恥じない活動をしていこう」という意識が会員の中に芽生えたように思います。

今後は、そのような思いを胸に、地域や企業などに関わる活動をより積極的に展開していきたいですね。

年間スケジュール

- 5月 新入生歓迎旅行
- 8月 夏旅行
- 10～11月 『空転防止』発行、「むつめ祭」展示
- 3月 『空転防止』臨時号発行
- ※その他、貸切り列車の運行などを不定期に実施

卒業生紹介

活躍する卒業生からのメッセージ



埼玉大学在学中に、バトントワーリングのトップ選手として世界を舞台に活躍

埼玉大学時代に 物事を多面的に見るスキルが 身についたおかげで 人としてはもちろん 選手としても成長できました

東海大学付属大阪仰星高等学校
教諭

石川 萌さん

Ishikawa Kizasu

昨年の世界選手権優勝選手が語る バトントワーリングの魅力

昨年の春から、長年の夢だった英語教師として、大阪府枚方市にある東海大学付属大阪仰星高等学校に勤めています。学生時代は、英語の勉強に励みましたが、並行して打ち込んできたのがバトントワーリングです。これは金属製で棒状のバトンを回転させたり、空中に投げたりするパフォーマンスを行うスポーツ。私は母が指導者だったこともあって3歳から取り組んできました。選手としての思い出は、3本のバトンを使って演技を行う「スリーバトン」種目において、全日本バトントワーリング選手権大会で4度、世界選手権でも2度優勝できたこと。昨年、現役を引退してからは、当校のチャイレーディング・バトントワーリング部の顧問を務めている他、所属するバトンチームで後進の指導にあたっています。

バトントワーリングの魅力は、バト

ントワラーが扱うと、まるで命が吹き込まれたかのようにバトンが動くところに尽きるでしょう。体操や新体操、ダンス、バレエの要素が詰め込まれたような美しくダイナミックなパフォーマンスは、とても見応えがありますよ。

研究にも、競技にも 精一杯取り組んだ大学時代

埼玉大学では、バトントワーリングを広めることを目的にバトントワーリングサークルを設立しました。講義や自分の練習もあったので、大変でしたが、メンバーも40人ほど集まり、今となってはよい思い出ですね。

大学院では、身体の動きの美しさは何か？ということなどをテーマにした「身体論」を研究。指導いただいた先生方からは、視野を広くして、物事を多角的に考えることの重要性を学びました。1つの考え方にとらわれないことは、研究はもちろん、バトントワーリン



「指導する選手には、技術の向上だけでなく、バトントワーリングを通して、人間的にも成長してほしい」と石川先生

グの選手としても役立ったと思います。英語教師も、バトントワーリングの指導者も、私が持つものを自分だけのものでも終わらせたくないという気持ちで取り組んでいます。生徒や後輩たちには、知識や技術だけでなく、埼玉大学で学んだこのような考え方も伝えていきたいです。

Profile

熊本県熊本市生まれ
PL学園高等学校卒業
2015年 神田外語学院卒業
埼玉大学教養学部ヨーロッパ・アメリカ文化
専修課程に編入学
2017年 埼玉大学教養学部ヨーロッパ・アメリカ文化
専修課程卒業
2019年 埼玉大学人文社会科学部研究科博士前期課程修了
2019年より現職

学長からのメッセージ

本学の坂井学長は、かつて公立の高等学校でも教鞭を執っていたという、理工系の大学教員としては珍しい経歴の持ち主。そんな学長が、これまでを振り返りながら、受験生や学生の皆さんに伝えたい思いを語ります。

自身の成長を促すには 興味の幅を狭めずに 経験値を高める

埼玉大学学長 坂井貴文

教員としてのキャリアは、埼玉県内にあった定時制の高等学校の理科の教師からスタートしました。元々、人に何かを教えることが好きで希望した仕事で、生徒が成長する様子を間近で見られ、とても楽しく充実した毎日を送っていたのを覚えています。

その後、別の高等学校に移ってしばらくした頃、ひょんなことから群馬大学の内分泌研究所の手伝いをしたことがきっかけとなり、研究者の道を歩むことに——。はじめは高校教師との二足の草鞋でしたが、研究所の技術職員に空きが出たタイミングで転職。当時は、全身の体内環境の制御を行う下垂体の研究に携わっていて、研究の楽しさを知った後だったので躊躇はありませんでした。

内分泌研究所では、途中から、外科医ながら、消化管運動研究の第一人者であった伊藤漸先生の助手を務め、消化管ホルモンの研究に取り組みました。あまり知られていませんが、消化管は体内で最大の内分泌器官として、下垂体同様に全身の様々な調節を行っているのです。

その後、埼玉大学へ赴任しましたが、実は本学に来た当初は、消化管の研究は全くやめて下垂体の研究に集中していました。しかし、下垂体研究をしていると、消化管ホルモンがちょくちょく顔を出します。また、伊藤先生がやり残された消化管研究も心に引っかかっていたものですから、「これは、消化管から逃げられないな」と運命的なものを



感じて、改めて消化管ホルモンの研究に取り組むことにしたのです。

これまでのことを振り返ると「経験こそが人を成長させる」ということを感じずにはられません。それは私自身もそうですし、指導してきた生徒たちのことを思えば明白です。例えば、一番初めに勤めた高等学校では、ほとんどの生徒が昼間働きながら夜間に通学していましたが、世の中の荒波に揉まれ、様々な経験をしてきた生徒ほど、卒業後に活躍していることが多い気がします。

ですので、学生の皆さんは、文系や理系、あるいは学部、学科という垣根にとらわれず、できるだけ様々なことに興味や興味をもって行動し「経験値」をあげてください。5つの学部が1つにまとまっているキャンパスを持ち、インターンシップや留学など、キャンパスを超えた学びの機会をさらに充実させている埼玉大学は、そのような興味や興味に応える学びの環境が整っている大学です。本学に入学を希望する皆さんには、ぜひこの環境の下、自らを成長させる経験をたくさんして欲しいと考えています。



埼玉大学理工学研究科 坂井研究室の学生たちと

Information

埼玉大学で学びたい方への最新情報をお届けします。
また、入学試験の内容に関して、来年度入試から変更される点があります。
変更内容にご注意ください。

資料請求[大学案内・各学部案内]

1 テレメールで請求する場合

インターネットから https://telemail.jp/_pcsite/?des=033761&gsn=0337655

テレメールの資料請求方法などについてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (受付 9:30 ~ 18:00)

右のバーコードを読み取って
アクセスしてください。



2 埼玉大学に来学して受け取る場合

埼玉大学学務部入試課（教育機構棟1階）で受け取ることができます。
月曜～金曜（祝日等を除く）9:00～17:00
※守衛所（埼玉大学正門わき）では、上記の曜日・時間以外にお渡しできます。

入試情報（令和2年3月31日時点） 令和3年度入試の主な変更点は以下のとおりです。

●各学部共通

一般選抜で、調査書を活用します。合否ラインで同点となった場合に限り、調査書を活用し順位を決定します。
調査書は主体性・多様性・協働性の観点から総合的に評価します。

●教養学部

1). 後期日程で、個別学力検査における小論文において、「主体性」についても評価します。

●経済学部

1). 前期日程（国際プログラム枠）で、英語力検定試験の成績提出を廃止し、大学入学共通テストの英語を必須とします。
2). 従来の推薦入試を廃止し、総合型選抜を実施します。

●理学部

1). 基礎化学科：前期日程で、個別学力検査における総合問題を廃止します。
2). 分子生物学科：前期日程で、個別学力検査における総合問題を廃止し、面接を課します。
3). 生体制御学科：後期日程で、個別学力検査における理科を廃止し、小論文を課します。
4). 生体制御学科：総合型選抜を実施します。

●工学部

1). 環境社会デザイン学科：学校推薦型選抜で、大学入学共通テスト外国語（英語）への英語民間試験の換算について、TOEFL (PBT) は活用しません。

入試情報を
しっかり
チェック!



埼玉大学マスコットキャラクター
メリンちゃん

●変更点は以上ですが、あくまでも予定ですので、詳細については、令和2年7月頃公表する「令和3年度入学者選抜に関する要項」にてご確認願います。



360°パノラマビューCampus Map

初めて埼玉大学へ来られる方々に、キャンパスのイメージが伝わるよう、北浦和駅や南与野駅のバス停の様子も含め、約20箇所の画像を掲載しています。



埼玉大学広報 公式Twitter

Twitterでは、本学の新着ニュース、イベント等、さまざまな情報を発信しています。



埼玉大学公式 YouTubeチャンネル

YouTubeでは、本学のキャンパスや、教育研究活動、学生生活の情報などを動画でお届けします。



埼玉大学入試LINE @

LINE @アカウントを友だち登録して下さった方に、入試情報、入試関連イベントのお知らせなど受験生のみなさんに役立つ情報をお届けします。



SAIDAI CONCIERGE vol.31

■発行日 2020年5月
■企画・編集発行 埼玉大学広報渉外室
■問い合わせ先 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057
E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp



この冊子に関するご意見やご質問は、
埼玉大学広報渉外室までお寄せください。

<http://www.saitama-u.ac.jp>